

のような方法で進めるのか。また、以前から申し上げている生ごみを利用した堆肥センターの実現に向け研究されているが、プロジェクトの設置と建設目標年次はいつ頃になるのか。

答 有機無農薬栽培に取り組んでいるグループや不耕起栽培を進める営農組合は市内にもある。本物志向として総社市でも取り組みを進めていきたい。堆肥センターのプロジェクト設置の件は、新しいプラントが完成すると同時に立ち上げられるように検討し、建設年次は浄化園の完成が一つの目安になるかと思う。

このほか、行政改革について質問をしています。

富谷 功

井原線について

問 井原線開通以来、踏切遮断による停滞、排気ガスによる大気汚染などに地域住民は不満を感じている中で、本年度、清音駅東地区整備事業も実現に向け

予算化され、地域住民の利便性が多いに期待される。総社市清音駅となった今、総社市の南玄関として井原線の起終点を清音駅に出来ないか。JR伯備線の使用料負担金の削減、大気汚染の抑止など、地域住民の不満の解消に期待できると思うがどうか。

答 井原線の関係はいろいろと問題があり、赤字補充を沿線の自治体が負担している。以前に、井原鉄道からJRの線路の使用料約6000万円、これを削減したい旨のご相談を受けた経緯がある。今後、清音駅東地区整備事業を契機に清音地区住民のご事情も理解できたので、今後、変更できないものか、検討していただくよう話をしてみたい。

頓宮 美津子

食育について

問 食育という言葉をよく聞くが、日本人の食糧事業からさまざまな問題を起こしている。食育の安全



ランチルームでの楽しい給食時間

性については、基礎知識の習得、教育を強化する必要があり、子どもの時から食について考える習慣を身につけることが大切である。市は現在、どのように食育がなされているか。また、今後の長期計画的なビジョンがあるのか。

答 食に関する指導は、保護者に対し学校、だよりや学級通信で、朝食をきちんをとる、バランスのとれた食事をする、食習慣を身につけることの大切さを知らせている。また、今年度から栄養教諭制度が導入され配置された場合は、学校教諭を中心に学校、家庭、地域における食に関する指導の充実に努め、さらに地産地消の拡大を図りたい。

学校給食について

問 子どもを抱えている親にとつて食物アレルギーが一番心配なのは学校である。アレルギーの対応についてどう考えているか。

西森 頼夫

助役・収入役の配置について

答 毎年行なう児童の食物アレルギー調査をもとに除去食、代替食で対応し、職員が共通の情報をもち即対応に努めている。本市学校給食は、食材の納入時に品質検査も実施し保証されており、地産地消にも努めている。アレルギー対策委員会は今後、審議会に諮り検討したい。共同調理場は、新たに統合した施設を検討していく必要がある。